

# たかおさん

「シミュラクラ現象」の巻

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。

**シミュラクラ現象**  
をご存じですか？

→ 3つの点があつると、人や動物の顔に見える現象。

クズの葉痕

これ、シミュラクラ現象。

登山道に落ちて、穴のあいた葉っぱ

これも、シミュラクラ現象。

福澤解説員発見！  
ビジターセンターの電話！  
(うら側)

シミュラクラ現象～!!!

作・絵：やまもと

## Twitterでお知らせ！ 高尾ビジターセンターニュース

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！  
4月1日から新しく登場した『高尾山花めぐり手ぬぐい』のご紹介です♪

**高尾ビジターセンター【公式】**  
@takaovc

4/1(土)から販売開始！  
高尾山を彩る季節の花をデザインした『高尾山花めぐり手ぬぐい』を4/1より高尾ビジターセンターにて販売いたします！  
どちらの色もステキなのでお楽しみに！

価格：1500円(税込)  
カラー：山吹色・若草色(全2色)  
※オンライン販売は準備が整い次第、販売いたします。

3月27日に投稿したこちらのツイートにたくさんのいいねやコメント、リツイートをありがとうございました！ぜひビジターセンターでお手に取ってみてください♪  
『ムササビ食痕手ぬぐい』のお得なセット割も実施中です！

### 解説員 こらむ vol.33

#### 3号路の土になりたい

皆さんは心が疲れた時に何を見たら元気になりますか？僕の場合、昆虫を眺めることで、今日までに量れないほどの元気をもらってききました。高尾山は昆虫の宝庫なので、ビジターセンターへ向かう通勤途中でも英気を養えます。しかし疲労具合によっては、それだけでは足りないことが多いです。そんな時は、他のスタッフから「泥」と称される非常に濃いコーヒーを飲むことで不足していた元気を取り戻しています。しかしもう若くないので「泥」を摂取するのは避けるべきだと最近感じています。やはり昆虫観察のように視覚的に英気を養う他の方法を探さなければなりません。

そんな都合の良い物があるかと思いましたが、見つかりました。3号路の土です。山内が潤った梅雨の時期でした。朝日の木漏れ日のもと、林床の合間から露出した柔らかい土から湯気が出ていたのです。これは「地霧(じぎり)」といって畑等でよくみられる現象ですが、なぜかこの時は優しい温もりと森のエネルギーみたいなものを感じました。おかげで元気いっぱいになりました。この日は「泥」に頼らなくて済みました。後日、「3号路の土がとても良い。3号路の土になりたいです」と他のスタッフに言ったら苦笑いされたのをよく覚えています。

高尾山には歴史があり、守られてきた自然のかけがえのない場所。皆さんも元気が欲しい時に高尾山に来てみてはいかがですか？あなただけのパワースポットが見つかるかもしれません。

〈解説員 こばやし〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2023年春号vol.71

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2023年4月16日発行

所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

(公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます <https://www.ces-net.jp/takaovc/>)

高尾山山頂から発信！

# のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.71 季刊  
2023年 春号

## 高尾山の芽吹き

高尾山は植物の種類が多く、その数なんと約1600種類！そのため様々な芽吹きが見られ、それらを心待ちにする生き物がいます。高尾山で特徴的な芽吹きや生き物の活動から春を感じましょう♪

イヌブナと比べて葉に毛がない！

イヌブナの観察は4号路がオススメ！

開花と同時に葉が展開します！

ブナ

イヌブナ

ヤマザクラ

フサザクラ

シロダモ

クロモジ

コクサギ

イロハモミジ

クヌギ

開花

葉が出る前に花が咲きます

芽吹きたての葉は細かい毛でフワフワです

葉をもむと爽やかな香りがします♪

淡い緑色がきれいです

紅葉も芽吹きも赤いです

待ちました!

### 芽吹きを待つ生き物たち

芽吹きがはじまると生き物たちが新芽を求めてまっしぐら! 芽吹きと生き物の関係をご紹介します。

アカボシゴマダラ × エノキ

冬は枝と幼虫が同じ色ですが、春になると芽吹き色に!



冬の姿

木の根元で越冬していた幼虫が、春に出てきた葉をもりもりと食べます。

ビロードアシナガオトシブミ × イヌブナ

成虫が芽吹いたばかりの柔らかい葉を巻いて卵を生み、生まれた幼虫がその葉を食べて育ちます!



やわらかな葉は子育てに最適♪

ムササビ × ブナ ヤマザクラ



高尾山のムササビはとってもグルメ! この時期はやわらかい新芽や開いたばかりの花・葉などを好んで食べているようです。登山道に落ちている食べ痕を探してみてください。

### 新芽の生き残り戦略

やわらかい新芽は生き物たちにとっておいしいごはん♪ しかし、植物は食べられるために葉をつけているわけではありません。新芽を守るために植物たちは様々な工夫をしています。



フサフサな毛の正体は、虫食いから葉を守る楯!

ふさふさの毛 × ブナ・イヌブナ



コクサギは漢字で「小臭木」

冬芽



アケが強い!

ワラビ



フキ (にか〜い)

ニオイや味で動物に食べられない × コクサギ ワラビ フキ

今回紹介した芽吹きと生き物は、高尾山に生息するもののほんの一部です。高尾山には多くの種類の植物が自生しています。植物の種類が多いと、それらを食べにくる生き物の種類も多くなります。そんな芽吹きがもたらす生き物との関わりを高尾山に見に来ませんか? 新たな発見があるかも知れませんよ!

〈解説員 いしかわ〉



ひとつひとつの芽吹きも生命力を感じますが、離れて見る新緑の高尾山はとっても美しいです!!

〈解説員 おかだ〉

## 高尾山周辺の遺跡〜荒井遺跡と猪鼻山遺跡〜

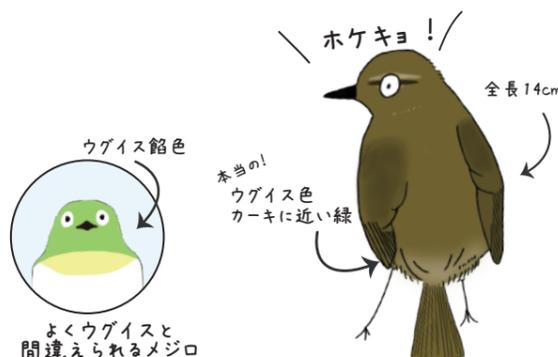
「遺跡」という言葉を聞いて、古代のロマンを感じる方は少なくないかと思いますが。過ぎ去りし時代の暮らしを現代に示す遺跡は、実は高尾山の周りでも発見されているのです。

皆さんは高尾山北側の麓に約8000年前の様々な遺物が残された縄文遺跡が見つかったのをご存じでしょうか。この遺跡は1987年に十菱駿武らの調査隊が発見し、荒井という地区で発見されたため「荒井遺跡」と名付けられました。ここでは当時高尾にいた縄文人たちの生活について、想像を掻き立てる様々な遺物が確認されました。一部を挙げるに、縄文土器の欠片、食器用の石皿、調理用の摺り石・叩き石・石小刀などが出土しています。見つかった遺物の中でも個人的に興味深かったのは、「落とし穴」2か所の発見です。これは一体何のために掘られたのかというと、狩猟のためだったとされています。文献によると「落とし穴は直径1.5メートル・深さ1メートルの穴で、底面に先の尖った槍状の棒が打ち込まれていた。縄文人が鹿や猪など、大型の野生動物を捕らえるために造った。」とされています。発見された遺物から縄文時代の荒井地区の様子をイメージしてみると、恐らくは集落兼狩場だったと考えられます。高尾山は戦国時代から現代にかけて「殺生禁断」として野生動物を含む多くの生命を殺さずに守ってきた歴史があります。更に大昔の縄文時代では高尾山の麓において、シカやイノシシ等の狩猟肉が当時の貴重な食糧資源であったことが伺えました。

荒井遺跡の西隣にある猪鼻山では「猪鼻山遺跡」と呼ばれる別の遺跡も1987年に同調査隊により発見されており、江戸〜明治時代にかけて利用された「炭焼き釜跡」4カ所が見つかっています。釜は全長3.5メートル・幅1.3メートル・深さ1.5メートルのフラスコ型となっており、主な材料は礫岩と粘土で築かれていました。釜の内側や周辺からは温度計測用のガラス管・煉瓦・茶碗も出土しており、付近の山の雑木林から木や竹を採取できる猪鼻山(高尾山の麓)は古くは炭の産地だったのでしょうか。私たち現代人が過去の時代を生きた先人たちの生活様式を知るためには、書き記した書物を除くと、先人たちが暮らしていた土地に残した遺物・遺構から想像する以外に方法はありません。そして大昔の高尾山の麓に人々が暮らす集落が確かに存在したということは、現代より自然環境の資源をより享受し共生していた先人たちにとっても、高尾山周辺は非常に生活がしやすく、昔から水や動植物が豊かであったこととの証明にもなるかと私は考えています。

〈解説員 なかの〉  
参考文献:八王子市裏高尾町荒井遺跡・猪鼻山遺跡調査報告、『多摩考古』第21号、十菱駿武(1991)

「ホーホケキョ!」と鳴くのはオスで、他のオスに対する縄張り主張や、メスへのアピールになる。



よくウグイスと間違えられるメジロ

古来より愛され続ける人々に春を告げる野鳥

秋・冬は「ヂッ…チッ…」と目立たない声で鳴く

解説員の



vol.29